資料３

魅力的な夜間景観のつくり方

魅力的な夜間景観をつくる上で、どのような点に着目すればよいか、夜間景観づくりにおいて知っておくと便利なポイントについて事例を用いて紹介します。

目　次

１　場所別の有効な照明手法・・P.1
（１）広場・公園
（２）道路
（３）水辺

２　地域別の有効な照明手法・・・・・P.4
（１）オフィス街
（２）繁華街
（３）住宅地
（４）中山間地
（５）島しょ部

３　対象別の有効な照明手法・・・・・P.7
（１）ランドマーク
（２）屋外広告物

魅力的な夜間景観のつくり方

1　場所別の有効な照明手法

（1）広場・公園

広場や公園は、人々が休憩、散策、交流する場として憩いを提供する公共空間であり、時にはイベントや集会の開催、災害時の避難場所など、様々な目的で活用されます。

道路とは異なり、主要な園路を除いて空間全体を均一に照らす必要はなく、活用目的に合わせて適切な陰影をつくり出すことが居心地の良さに繋がります。

人の目があれば自然と防犯性は高まります。

樹木を活用して適度に鉛直面の明るさをつくり、夜間も人が憩える空間にすることで、広場・公園が持つポテンシャルを高めることができます。



間接照明により落ち着きのある空間を演出する広場。（大阪市）



ベンチと植栽が点在する駅前広場。明るさは十分でありながらグレアを感じない例。（スウェーデン・ストックホルム）



建物や樹木のライトアップ・小壁の間接照明などを組み合わせ、明るさ感と陰影のある公園。（神戸市）



人の活動空間を明るくすることにより夜間も自然と人が集まる公園。（神戸市）

（2）道路

道路照明には、車道と歩道いずれも交通安全の観点から均一な明るさが求められますが、広範囲を照らす必要がある車道照明は高い位置に設置される場合が多く、同じ手法で歩道も照らしてしまうと沿道の建築物に不要な光を当ててしまうおそれがあります。

車道照明は歩行者へのグレアを抑制し、歩道照明は省エネルギーの観点からもヒューマンスケールを意識したスポットライトや低位置照明にするなど、歩行者の快適性に配慮した夜間景観の形成が必要です。

また、一定間隔に配置される道路照明の連続性を考慮し、シークエンス景観を意識した夜間景観の形成も求められます。



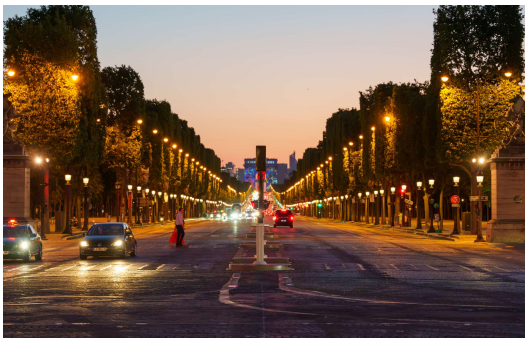
車道照明と歩道照明それぞれの役割に応じた手法の例。色温度が統一されている。（神戸市）



スポットライトポールによる歩車道照明。路面をしっかりと照らしながらもグレアのない環境。（大阪市）

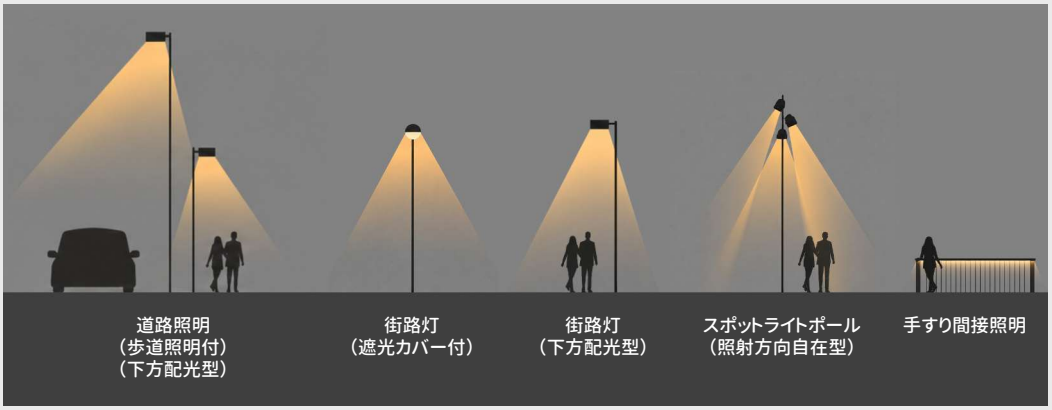


暗くなりがちな橋上の歩道が手すり間接照明によって歩きたくなる場所に更新された桜橋。（福井市）



暖かみのある色温度で統一されたシンボルロードの夜間景観。（フランス・パリ）

道路照明の演出手法の種類（一例）



道路・歩道の照明には様々なタイプのものがあります。
エネルギーを抑制し不要な光を放たない下方配光の照明器具であれば、不快な眩しさもなく、路面の明るさを十分とりながら大きな明るさ感を得ることができます。
また、最近では必要な個所を選んで照射できるスポットライトポールを採用する例も増えています。

（3）水辺

水辺は、広場・公園と同じく憩いを提供する場所であることに加え、水面に写るあかりがゆらぎや波紋の動きによって美しさを増し、夜間景観の魅力をさらに引き立てます。

水辺の特徴を生かすため、水面との位置関係を考慮したあかりの活用が有効です。

また、護岸や河岸緑地の連続性を考慮し、シークエンス景観を意識した夜間景観の形成も求められます。

こうした美しい水辺の夜間景観を眺める視点場の環境整備についても併せて取り組むことにより、居心地の良い水辺特有の夜間景観を形成することができます。



親水性の高い遊歩道と照明が整備され昼夜を問わず賑わいのある水辺空間。（大韓民国・ソウル）



照らされた緑と橋梁が水鏡となる美しい夜間景観。（豊岡市）



手すり間接照明と橋梁ライトアップにより都会らしい水辺の遊歩道。（大阪市）



落ち着きのある明るさに抑えられ、憩いの場となっている水辺空間。（ドイツ・ハンブルグ）

2　地域別の有効な照明手法

（1）オフィス街

高層ビルが立ち並ぶオフィス街の夜間景観は、歩行者が中心の低層階と都会的な景観を演出する高層階の照明手法それぞれを考える必要があります。

低層階はにぎわいと安心感を創出するため色温度が統一された漏れ光をなるべく外に出し、展望台などの高台から俯瞰して望む夜景の魅力の一つとなる高層階は建物意匠を生かした壁面ライトアップやスカイラインのライティングを統一することなどにより、都会的な品のある夜間景観を創出することができます。



建物からの漏れ光と壁面ライトアップが美しい
都会的な夜間景観。（東京都）



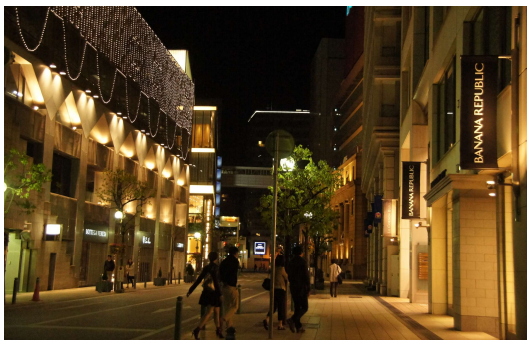
スカイラインのライティングが統一された
都会的な夜間景観。（大阪市）

（2）繁華街

商業施設が集積する繁華街は、色彩光や動きのある照明、内照式サインなどが多用されることにより、無秩序な環境になってしまう傾向があります。

一方で、画一的な照明の規制は、繁華街が本来持つ魅力を損なうおそれがあります。

エリアごとに特色のある繁華街では、地域がオリジナルのルールをつくることなどを通して、そのエリアの魅力を生かした光環境の創出に取り組むことが重要です。



あかりのガイドライン作成を通して形成されている
旧居留地の魅力を高める夜間景観（神戸市）



あかりのガイドライン作成を通して形成されている
中華街特有の夜間景観。（神戸市）

（3）住宅地

住宅地では、人の体感時間に合わせた心休まる雰囲気と防犯性の両立が求められます。

それぞれの家が門灯等を照らすことにより、夜間も地域に人けが生まれ、自然と防犯性は高まります。

防犯灯も必要ですが、その数や位置、角度によっては防犯灯の光が夜も部屋の中に入ってきてしまう場合があります。

良い意味で人の気配が感じる、そんな安心・安全な住宅地の夜間景観形成が有効です。



建物からの漏れ光が安心感を創出。（飛騨高山市）



戸建住宅の外構を生かした照明演出により
住宅地の安心感を高める。

（4）中山間地

中山間地には、都市部には無い魅力的な景観資源が豊富にあります。

例えば、神社や棚田のライトアップなど、照明演出により幻想的で非日常的な雰囲気を創ることができます。

一方で、動植物の生態系や環境面への配慮も必要です。



晩秋期に地域住民主導で継続的に実施されている
稲穂を照らしたあかりイベント。（邑南町）



棚田の地形を生かしたあかりのイベント。
（鴨川市）

（5）島しょ部

島しょ部は、前述の水辺と中山間地の特徴を合わせ持っています。

こうした点を生かし、護岸のライトアップによる島特有の夜間景観を形成することにより、島自体の魅力向上に加え、本土から島を望む魅力ある夜間景観を形成することができます。



港に集積する集落のあたたかな光と港らしさのある美しい港湾夜景。（フランス・コルシカ島）



港の顔となる港湾施設（海の駅）が象徴的な港湾夜景。（直島町）

3　対象別の有効な照明手法

（1）ランドマーク

建築物や橋梁、モニュメント等の景観魅力資源は、照明による演出次第で昼間とはまた異なる表情を見せ、その魅力を一層際立たせることで、地域の顔となる夜のランドマークとなり得ます。

例えば、建築物の照明演出では、単に外部から照射するのではなく、窓からの漏れ光を重要視した方が美しい場合があるなど、建築デザインによって最適な演出方法は様々です。

また、橋梁やモニュメントも形によって生かすべきポイントは異なり、そのものの構造美を生かした照明手法を採用することが重要です。



建築物のデザインを生かした美しい漏れ光の例。（東京都）


近代土木遺産である上部アーチ等橋梁のデザインを活かした橋梁ライトアップ。（大阪市）

（2）屋外広告物

屋外広告物の照らし方は、外照式と内照式、切り文字のバックライトなど様々です。

また、近年ではデジタルサイネージやメディアファサードなど、広告物に動きや音が加わってきています。

見る人がグレアを感じることなく、周辺と調和した屋外広告物に整えていく必要があります。



切り文字のバックライトによりグレアも抑制され、洗練されたデザインの店名サイン。（広島市）


輝度が抑制されて眩しくなく、色彩数もデザインされた良質なメディアファサード。（広島市）